

地域の元気創造に関する有識者会議 資料

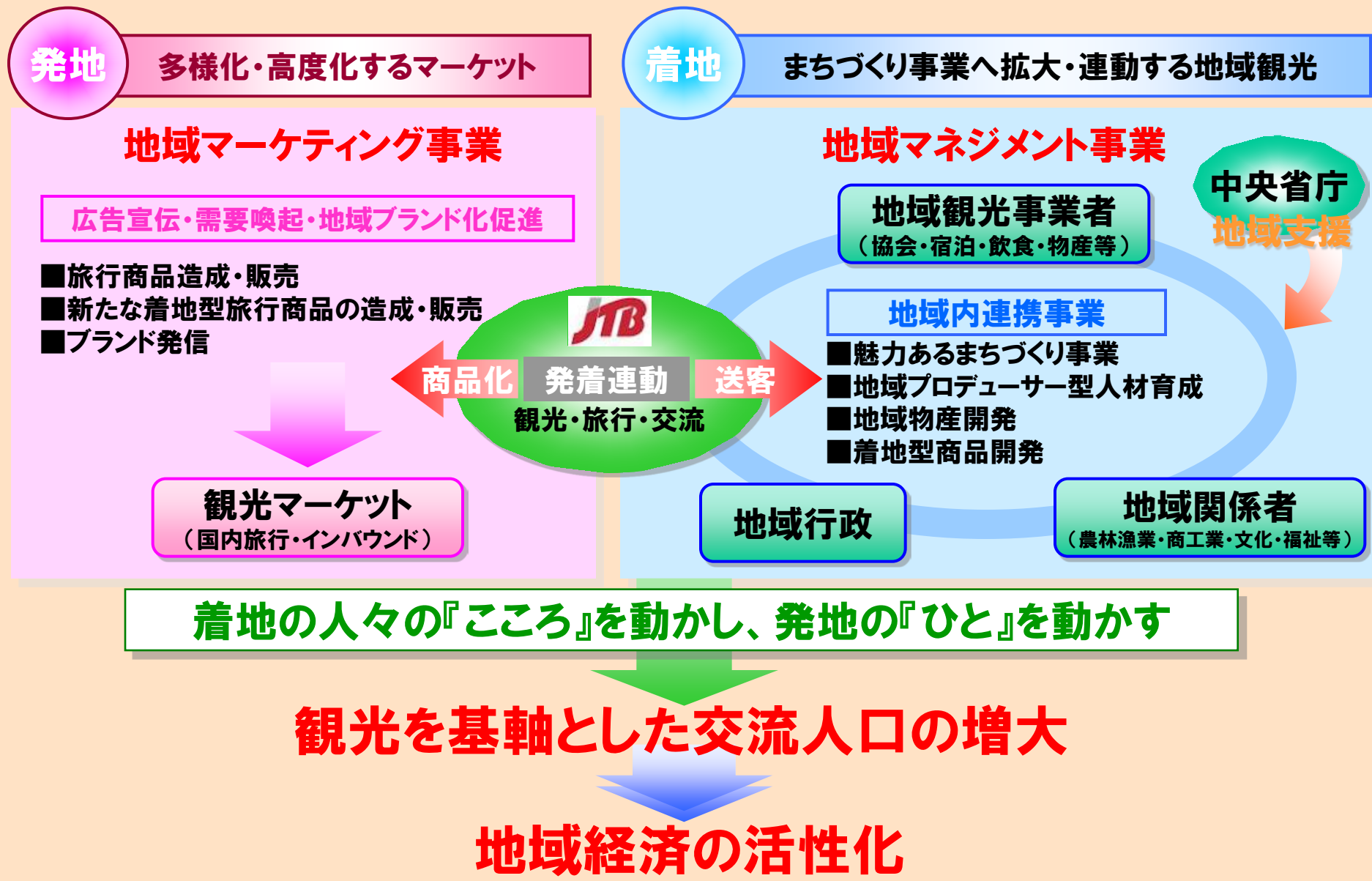
平成25年2月15日

株式会社JTBパブリッシング

執行役員 ソリューション事業本部 副本部長

楓 千里

■ JTBグループ地域交流ビジネスの事業概要

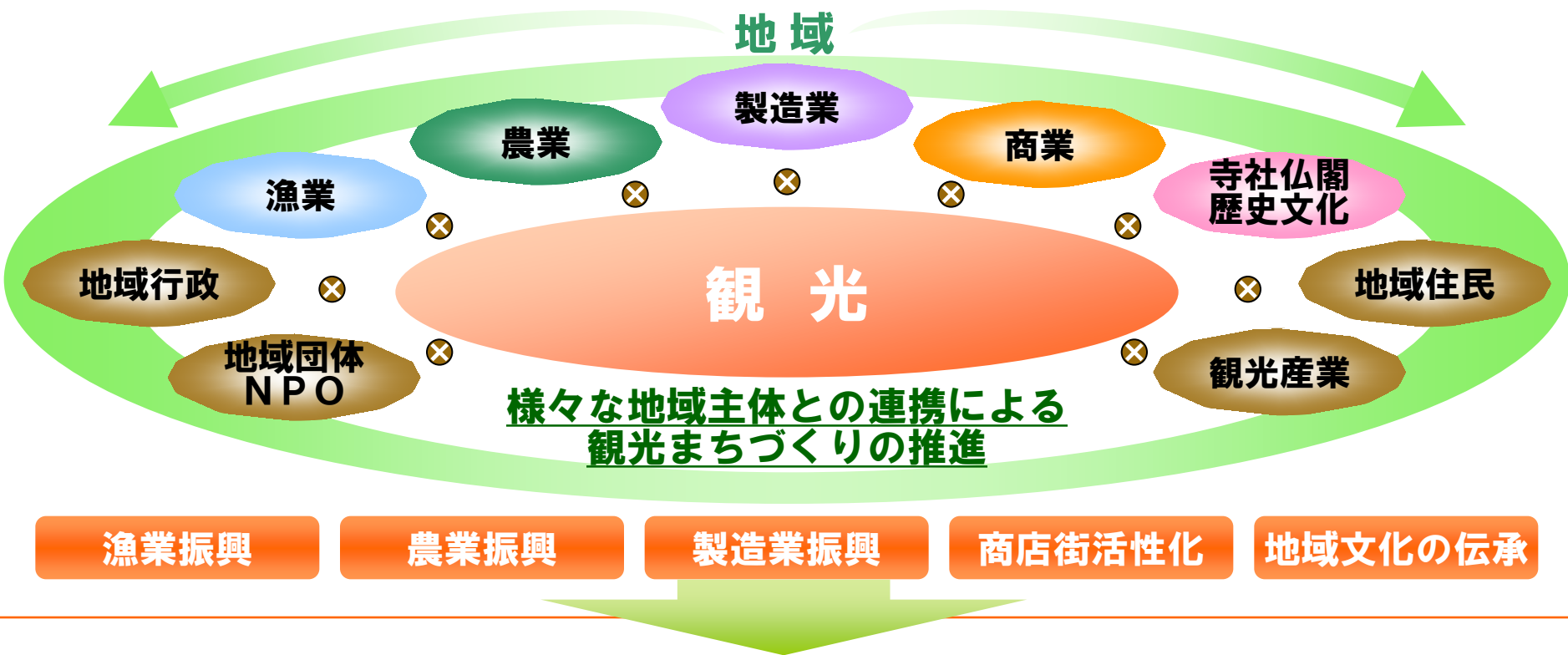


■ 地域参加型の観光まちづくり

地域資源のトータルマネジメント

従来の観光関連施設と超えた、様々な地域産業との連携による
新たな『観光まちづくりの推進』

各産業の連携により生み出された地域の新たな魅力を、訪れる観光客に体感していただくことで、
五感に訴える“感動”を生み出し、地域ブランドの創出・育成につながる。



交流人口の増大
地域ブランドの創出・育成、地域産業活性化

東大阪“モノづくり観光”活性化プロジェクト

◆事業の概要

地域のモノづくり産業と文化を感じてもらうことを目的に、モノづくり企業や商店街、既存観光施設に行政、経済団体、市民などと連携を図り、モノづくり観光体験プログラムや地域資源の開発・商品化を行い、教育旅行及び一般旅行者の受入れを図り、地域活性化に寄与する。



※地域のブランドである町工場（ものづくり）とそこに携わる「人」という地域資源に焦点を当て、多数の地元企業や商店街等とパートナーシップを組んだ取組み。広域・総合観光集客サービス支援事業を活用。

◆「モノづくり観光体験プログラム」としての着地型パッケージ商品例

**結まないナットの
トッスマーカー** 調見

[ハードロック工業株式会社]

無から有を生み出す創造性の
理念こそがハードロックナットを
誕生させました。



世界一小さなお菓子 体

コンペイトウ
ってどのくらい？

[コンペイトウミュージアムやお]

昭和15年に御菓子問屋として開業し、
ルイス・フロイスにより
伝えられたというコンペイトウを
現代の子供たちへも
丁寧につたえます。

るるぶ東大阪市
も発行



■ 東北版「地恵のたび」(JTBオリジナル着地型団体旅行商品)

旅の力、地元からの継続的な情報発信を通じての『震災復興支援プログラム』『防災学習プログラム』

JTB東北では、今回の大震災の風化を防ぎ、後世にその教訓を伝えることを目的として、本趣旨に賛同頂いた地元自治体・企業・団体と連携して『学びのプログラム』を作成しました。本プログラムは、この東日本大震災から『学び』『将来への備え』としたいと考えています。

地恵のたび
イキイキ地域を訪ねよう

<設定プログラム>

- 宮古プログラム
- 石巻プログラム
- 南三陸町プログラム
- 久慈広域プログラム
- 多賀城市プログラム
- 名取市プログラム
- 女川町プログラム
- 福島プログラム
- 松島～塩釜復興特別プラン

<参加状況>

2011年8月～2012年8月中旬まで
232団体、7,260名参加

【事例】南三陸町
震災復興支援プログラム・防災学習プログラム

スケジュール(約3時間半予定)

(出発時間により、スケジュールは前後します)
(昼食時間 60分を含みます)



①ベイサイドアリーナ
町の復興拠点となっているベイサイドアリーナで「語り部ガイド」と合流します。



②「3・11震災写真パネル展」視察(約30分)
実際の震災を体験した語り部ガイドがベイサイドアリーナ内に設置された震災写真パネル展を案内します。(今後、DVD視聴も検討中)



③「3・11 林映康(語り部プログラム)」(約60分)
ベイサイドアリーナの講和スペースにて「語り部ガイド」が震災の教訓を後世に伝えます。



④最大の被害を受けた志津川地区を視察(約60分)
「語り部ガイド」が同乗し、バス車窓から実際の被災地を案内します。その津波の破壊力に驚かされます。(写真は10月現在の志津川地区)



■ 途中で、ホテル福洋にて「復興昼食」(約60分)
ホテル福洋は震災からわずか一ヶ月後、断水が続く中で「復興の担い手である町民が外に流出することを防ぎたい(阿部女将)」と併設のレストランを再開し、2次避難先として被災者を受け入れてきました。現在も南三陸町の観光復興の先頭で営業を続けているホテルです。

農山村地域と都市との新たな連携 農都交流型ツーリズム

◆事業の目的

農山村地域のもつ様々な資源を活用して、都市型企業抱える人材育成、組織力の強化、メンタル面等の健康のケア等の多様な課題の解決を図るとともに、過疎化、高齢化に悩む農山村地域の『経済活性化』、『にぎわい創生』に貢献する。



農都双方の利益を最大化させる形でマッチング

◆「新しい農都交流プログラム」モニターツアー実施例

農山村地域と都市型企業・学校が連携した新しい農都交流プログラム・モニターツアーのご案内(山形県・飯豊町)

◆企画にあたって
日本の農山村には美しい景観や伝統的な文化・伝統、日本人が代々継承してきた農村の暮らしなど、私たち日本人が世界に誇れる魅力的な資源があります。その一方で過疎化や高齢化に伴う担い手不足など将来にむけた深刻な問題に直面している地域も多く、農山村の集落機能の維持も難しくなっています。将来にむけて農山村地域を維持していくためには、第一次産業のみならず、観光振興を含めた都市・企業との連携が不可欠と言えます。
一方都市型の企業・学校においても震災以降、本業を通じた地域活性化への貢献意識の高まり、自立創造的な人材の育成、社会的な課題となってきた節電への取組み、社員・生徒の心と体の健康等を考えたときに、今までの都市型の働き方やライフスタイルの見直しも必要に迫られていると言えます。
今回のプログラムは、農山村地域のもつ資源を活用して都市型企業・学校が抱える様々な課題解決を図るとともに、農山村地域の経済活性化、にぎわい創生にも貢献する事、すなわち「農山村地域と都市が新しい形で連携をより強化していくこと」を目的に行う取組みです。
このたびは山形県飯豊町が主体となり、総務省「平成24年度過疎地域等自立活性化推進交付金事業」を活用して、企業や学校の経営・人材育成担当者様に実際に農山村地域に来ていただき、プログラムを体感頂くモニターツアーを企画致しました。この機会にぜひ参加いただき、貴組織の今後の施策検討の場としてご利用いただければ幸いです。

◆モニターツアーの目的
地域資源を活用した企業活動実施の考察(農山村地域と都市型企業・学校の新たな連携を考える)
(1)人材育成(農山村での体験・交流を通じた人間力育成)
(2)社会貢献活動、地域との絆づくり
(3)活力ある組織づくり(チームワーク、コミュニケーション強化)
(4)福利厚生、ワークライフバランスの推進
(5)セカンドライフ支援 など

◆募集対象
企業・学校の経営者、人材育成やCSRご担当者様

■モニターツアー日程表(詳細は別紙をご参照ください)

日次	行 程	宿泊地	食事
1 10/10 (水)	東京駅発(9時頃)⇒(東北・山形新幹線)⇒米沢駅着(11時30分頃) 着後、貸切バスにて飯豊町へ。昼食後、中津川地区へ～ 「都市型企業×農山村地域連携による農都交流プログラム」 ■農都交流プログラム体験ツアー「新しいワークスタイル」体験 ■中津川地区視察(飯豊より) ■「農家民宿泊体験」	飯豊町 農家民宿	朝：× 昼：○ 夕：○
2 10/11 (木)	＜中津川地区＞ ■農作業体験 ■中津川の体験施設視察① 「稲刈の身、アノル、菅室、小室地区、山奥間、どぶろく醸造所など」 ■「いいでフォレスト・ワーク」体験 ■地元の方々を交えた「交流会」夕食・早蕨会(予定)	飯豊町 ホテル フォレスト いいで	朝：○ 昼：○ 夕：○
3 10/12 (金)	■中津川地区の体験施設など視察② ■中津川地区の体験施設など視察③(ゆり湯、食品加工施設、向中肥育施設など) ■飯豊の食材を使ったランチ 赤湯駅発(15:30頃)⇒(東北・山形新幹線)⇒東京駅着(18:00頃)		朝：○ 昼：○ 夕：×

- 人材育成(農山村での体験・交流を通じた人間力育成)
- 社会貢献活動、地域との絆づくり
- 活力ある組織づくり(チームワーク、コミュニケーション強化)
- 福利厚生、ワークライフバランスに推進
- セカンドライフ支援 等



地域が抱える様々な課題

第1・2次産業

後継者不足の解消
付加価値製品の開発

商業活性化

商店街のにぎわい創出
伝統工芸品の振興

環境問題

自然環境の保全
ふるさとの景観維持

高齢者問題

生き甲斐対策

観光・交流の視点から見れば……

産業観光の推進
|ターンの促進
地産地消の促進

まち並みの魅力発信
体験型観光の提案

エコツーリズムの推進
田舎らしさの魅力

地域文化の伝承・ガイド
としての活躍

地域のあらゆる問題解決に観光は関わってくる

美しい国『日本』に向けて

農山村地域の課題

- 少子高齢化、都市への人口流出、過疎化による担い手不足
- 産業の空洞化、都市との経済・生活環境の格差
- 魅力ある地域資源の域外へのPR不足
- 地域発のリアルタイムな情報提供環境の未整備

ソフトインフラの整備

- ◆ 地域の担い手となる人材育成
- ◆ 地域における雇用の確保
- ◆ 地域の魅力の情報発信 等

交流人口拡大に向けた受入環境整備

ハードインフラの整備 各種規制・制度改革

- ◆ 電線の地中化や古民家等の保護等による町並みの景観整備
- ◆ 看板設置の規制や建築物の高さ規制等による日本固有の原風景の保護
- ◆ 地域住民、来訪者のための二次交通の整備
- ◆ 地域内マルチデバイスWi-Fi環境の整備 等

地域の元気創出

ソフト・ハードが連携した事業の推進による『住んでよし、訪れてよし』のまちづくり

美しい国『日本』の再生